人間情報学研究科

人間情報学専攻

多彩なテーマで院生と教員が活発に議論

詳しい情報はコチラ!

専攻の紹介

人間情報学研究科は教養学部を母体とする大学院であり、ダイナミックに変容する現代社会をさまざまな切り口から捉え、学際性の高い実践的教育研究をおこなっています。

前期課程の大学院生は、社会情報（社会学、教育学、人文地理、地域構想系）、行動情報（心理学、教育工学、体育学系）、生命・情報（コンピュータ科学、数学、生体情報学、情報科学、環境科学系）のいずれかを主たる研究領域とし、また自然科学系、人文科学系の諸科学から、基礎的な分野についての幅広い支援を受けて研究をおこなっています。その核となるのは人間情報学演習であり、多彩な研究分野のスタッフからなる教員チームが指導にあたり、学際的な研究を実のあるものにしています。

後期課程では主として人間情報学演習と論文指導により研究を深めますが、ここでも複数の教員からなるスタッフが様々な角度から学際的な指導をおこないます。

本研究科のもうひとつの特色は、社会人にも広く門戸を開いている点にあります。社会の現場における様々な課題を研究テーマとし、より実践的な研究がおこなわれます。そのため、現役の社会人が履修しやすいよう土曜日を活用するなど、柔軟な時間割が組まれます。院生には大学、研究所、学校等に在職している研究者や教育者などに加え、会社員や公務員、さらには現役を退いてから入学した方や主婦なども含まれるため、演習などでは院生と教員が多様な視点から活発な議論を展開しています。

理念・目的

人間にとって真に望ましい情報化社会の創造を目的として、人間情報学の高い専門性の修得とともに人間ならびに人間を取り巻く種々の環境への深い洞察力を涵養し、幅広い視野から実社会の諸問題の解決に学際的、独創的に貢献する専門家を育成する。

教育目標

①学際性の重視：社会情報学、行動情報学、生命・情報学のカリキュラムに基づいて、多様な専門領域の有機的連携を重視した学際性の高い教育研究を行う。

②社会貢献：望ましい情報化社会の実現に貢献する教育研究機関として、社会の要望に応える。

③知の実践的統合：地域社会の諸課題に取り組む社会人など、幅広い経験や背景を持つ者も大学院学生として受け入れ、知の実践的統合を促進する。

教員からのメッセージ

日本語教育学担当

佐藤（さとう）　真紀（まき）准教授

今私たちが生きている社会は、日々刻々と変化し、昨日まで当然だと思っていたことが当然ではなくなるようなことが起こっています。こうした状況の中、人間そのものやそれを取り巻く環境について一つずつ紐解いていき、実社会の問題解決に貢献していく、そして、そのために必要な広く深い知識を身につけ、実践と理論を往還し、さらに独創的な発想を磨いていく、それが「大学院」という場所だと思います。大学院では、自分が見つけた問題意識を解決すべく、とことん探求していくことが可能です。

私はそれを、院生達と「日本語教育学」という視点から行っています。日本語教育学とは、日本語を母語としない人に対し、言語として日本語を教えることを追求する学問です。そのためには、日本語教育や日本語について学ぶことはもちろんのこと、多言語多文化共生について学ぶことも必要ですし、言語学、教育学、心理学、文化人類学等、多くの隣接領域について学ぶことも必要です。その点、人間情報学研究科の教員やその研究テーマは非常に多彩で、社会情報学、行動情報学、生命・情報学の領域を主軸とした各分野からの指導を受けることができます。また、複数名の教員が連携することで、複合的な視野のもと学際的な研究が可能です。

教員だけではありません。大学院には様々なバックグラウンドを持つ院生達がいます。学部4年間で学びきれなかったことを更に学びに来る人、これまでとは異なる新たな分野に飛び込んでくる人、新しい夢を見つけ専門知識を学びに来る人、一度社会に出て現場を知り新たな問題意識を持って学び直しに来る人…その共通点は、「学び続けたい」という気持ちです。そのような人達と議論をし、共に学べることは、非常に刺激的で、必ずや皆さんの視野をグッと広げ、新たな世界を見せてくれると思います。「研究」という武器を手に、実社会に貢献できる専門家を目指したい方、ぜひ本専攻科で、ユニークな教員や院生達と共に学びましょう。

大学院生からのコメント

人間情報学専攻
博士課程前期課程２年

竹内（たけうち）　稚尋（ちひろ）さん

私は、学部３年生の頃から、日本語教員になりたいと考えてきました。きっかけは、学部で日本語教育に関わるゼミに所属し、そのゼミのプロジェクトであるEPA介護福祉士候補生への学習支援に携わったことです。その活動を通して、彼らの日本語学習に興味を持ち、さらに理解を深めたいと考え、大学院への進学を決意しました。

そして、現在は、介護福祉に携わる外国人労働者への日本語教育について研究をしています。今日の日本では、介護施設で勤務する外国人が増加しているものの、彼らへの日本語学習支援は、十分ではないと言われています。そこで、私の研究が、少しでも彼らに寄り添い、教育現場に貢献できるものになることを目指しています。

大学院の講義は、先生と数名の大学院生という少人数クラスであるため、積極的に意見を交換しながら議論を進めることができます。それだけでなく、自身の専門以外の他分野の講義もカリキュラムに含まれているため、それらの知識や学びを幅広く得ることができます。そこで得たものは、自身の研究を考える際のヒントにもなっています。また、自分がまとめたものを他の院生達の前で発表する講義が多いため、私にとって大切な経験になっています。

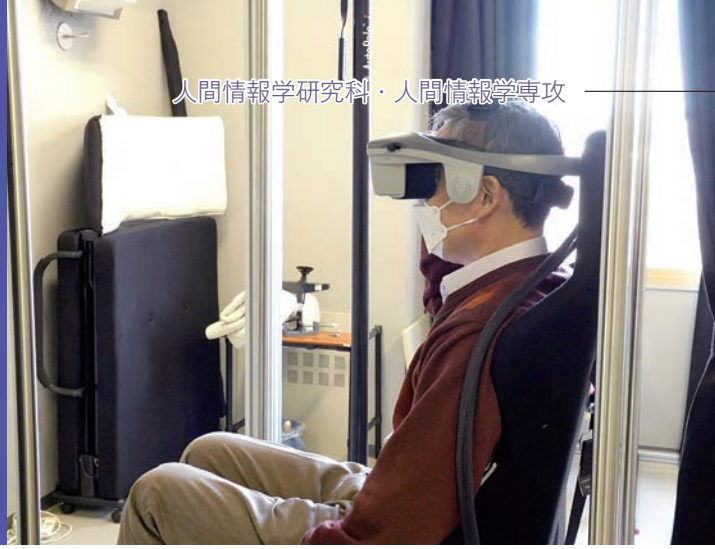
大学院生活では、仲間や教授、環境から多くの良い刺激を受けながら日々過ごすことができています。これらの刺激を大切にし、これからも研究を進めていきたいと思います。

東北学院大学大学院 人間情報学研究科

公認心理師科目を設置しました

離れると「公認心理師」、近づくと「人間情報学」の文字がみえます。

Ref: Oliva, A., Torralba, A., & Schyns, P. G. (2006). Hybrid images. ACM Transactions on Graphics (TOG), 25(3), 527-532. https://doi.org/10.1145/1141911.1141919



研究領域／研究分野

行動情報学領域

・心理に関わる分野
行動情報心理学、適応行動学、社会心理学、組織心理学、知覚心理学、認知心理学、健康行動学、臨床健康心理学、教育工学

・スポーツに関わる分野
スポーツ科学、スポーツ生理学、健康体力統計学、運動免疫学

社会情報学領域

・社会に関わる分野
応用社会学、情報社会学、社会教育学、社会情報システム論、生活情報システム論、社会統計学

・地域に関わる分野
地域情報学、地域社会論、地域政策論、地域産業論、地域福祉論

生命・情報学領域

・生命とコンピュータ科学に関わる分野
応用情報学、インターフェイス、コンピュータシステム演習、マルチメディア情報処理、コンピュータネットワーク、生体情報学、生体情報処理系、記号処理論、言語情報処理論、計算と論理、数理情報科学、フラクタル、複雑系の科学、数理統計学、代数学、幾何学、データベース

・環境に関わる分野
大気・水環境論、地表環境論、生態学、地球環境史、地球環境論

担当教員・研究テーマ

■代数幾何学 石田 弘隆
代数曲面の構造と不変量の研究

■産業・組織心理学 井川 純一
従業員の精神的健康とモチベーション

■人文地理学 岩動 志乃夫
都市や産業の地域構造に関する研究

■地形学 伊藤 晶文
過去約２万年間の地形発達史、高解像度地形情報を用いた地形変化解析

■情報工学 伊藤 則之
コンピュータ設計などを支援するソフトウェア研究

■教育工学 稲垣 忠
情報技術を用いた授業設計、学習環境のデザインに関する研究

■数学 岩田 友紀子
エルゴード理論と確率過程

■人文地理学 遠藤 尚
東南アジア、特にジャワ農村の農村生計と自然資源管理についての研究

■社会福祉学、障害者福祉、NPO・ボランティア活動 大澤 史伸
わが国における福祉市民活動の現状と課題

■応用健康科学、発育発達学 岡﨑 勘造
子どもの生活習慣の評価とそのヘルスプロモーションに関する研究

■数学 片方 江
複素力学系

■教育社会学、社会統計学 片瀬 一男
健康格差、高等教育、性行動、計量歴史社会学

■認知心理学 加藤 健二
日常行動の認知心理学的分析

■臨床心理学 金井 嘉宏
不安障害・うつ病に対する認知行動療法

■計量社会学 神林 博史
不平等・社会階層に関する計量的研究

■理論言語学 岸 浩介
生成文法理論に基づいた自然言語の統語論と意味論

■文化社会学 小林 信重
メディア文化・産業の調査研究

■教育哲学 紺野 祐
教育の意味と起源に関する人間学的研究

■情報科学 坂本 泰伸
ネットワーク分散システム

■運動免疫学 坂本 譲
運動やストレスが免疫機能に及ぼす影響と健康

■農村社会学、理論社会学 佐久間 政広
①農山村における高齢者の生活実態に関する研究
②贈与論の理論的視点からの地域社会論

■視覚心理学 櫻井 研三
人間の奥行知覚の解明

■数学 佐藤 篤
楕円曲線の数論

■日本語教育学 佐藤 真紀
外国につながる子どもの言語教育

■臨床健康心理学 東海林 渉
慢性疾患を有する者の心理に関する研究

■情報科学 菅原 研
自律分散システム論、群ロボットシステム

■福祉社会学 菅原 真枝
日本における外国人ケアワーカーの介護労働と地域生活に関する研究

■情報科学 杉浦 茂樹
分散環境を活用した創造性支援

■数理社会学 鈴木 努
集合行動、メディアコミュニケーションのネットワーク分析

■家族社会学 仙田 幸子
既婚女性の出生・就業行動

■スポーツ科学 高橋 信二
健康体力統計学、身体活動および運動パフォーマンスの測定・評価方法の研究

■情報科学 高橋 秀幸
エージェント指向IoT(Internet of Things)システムの研究

■情報科学 武田 敦志
機械学習とゲーム人工知能

■スポーツ科学 千葉 智則
運動生理学、特殊環境下における運動時の呼吸循環機能の研究

■文化人類学 津上 誠
東南アジア諸社会および現代日本社会の文化人類学的研究

■生物情報学、感覚受容 土原 和子
生物における情報の受容機構の解明

■教科教育学 坪田 益美
多文化共生を目指すシティズンシップ教育についての理論的研究

■発達心理学 萩原 俊彦
大学生のキャリア選択における動機づけの役割

■社会教育学 原 義彦
公民館経営診断技法の研究

■日本語教育・日本語学 房 賢嬉
日本語音声教育に関する研究

■臨床発達心理学 平野 幹雄
攻撃性、衝動性等の発達特性の理解と支援者支援

■植物生態学・景観生態学・環境教育 平吹 喜彦
生態系評価に基づく"ヒトと自然の持続可能なかかわり"に関する研究

■社会心理学 福野 光輝
交渉における認知や感情の働き

■数学 星野 真樹
微分方程式の解の挙動と構造の解明

■生物情報科学 牧野 悌也
神経ネットワークによる情報処理、情報表現

■地域福祉学 増子 正
財政分析による民生費を中心とした市町村合併効果の測定

■生体情報学 松尾 行雄
生物音響学

■情報科学 松本 章代
自然言語処理技術のウェブサービスへの応用

■天文学 村上 弘志
X線天文衛星を利用したブラックホールなど高エネルギー天体の観測

■哲学 文 景楠
アリストテレスを中心としたギリシア哲学、現代分析哲学

■自然地理学 目代 邦康
自然環境の保護・保全

■経済地理学 柳井 雅也
先端技術産業の地域的立地についての研究

■津波工学、海岸工学 柳澤 英明
津波発生リスクと地域の脆弱性評価に関する研究

■アジア経済論 楊 世英
アジア諸国における雇用創出に関する研究